▲ 吹き抜けの広がりと大きな窓がクリニックであることを 忘れさせてくれるリハビリ室。患者の評判も上々だ。

### 新開業医REPORT

## 診療一笑い 患者もスタッフも満足させたい

院長 吉村 裕氏

吉村整形外科醫院(香川県)

くなったと言う。そんな吉村氏りなど、勤務医時代よりも忙し病院へ宿日直で勤務に出かけた行ったり、休診日も手術や救急 求し、夢を実現させた。品一つひとつに自分の理想を追許さず、土地、建物、内装、備 昼休みを利用して訪問診療を

きそうな、 象を醸し出している。 ドに包まれ、 央に大きなつくりつけのテーブルが置 科醫院」(整形外科・リウマチ科・ かれた待合は和気あいあいとしたムー ハビリテーション科・訪問診療)。 ンがモダンな印象を放つ「吉村整形外 しにされた木製の柱のコンビネーショ ガラス張りの壁面と、あえてむきだ

どこも似たりよったりでした。待合と ながら1社もありませんでした。結局 ですが、そういったメー つなげるような発想を期待していたの 7年前に自宅の建築を依頼した地元の 「この建物を建てる前に、大手ハウス ハビリ室を壁で仕切らずに空間的に -カーは、

許さず、土地、建物、内装、備については、いっさいの妥協は診察に取り組む吉村裕氏。開業が診療一笑い〟をモットーに

り抜き、使えるお金は全部使ってしま ニックの建物にはとことんまでこだわ は何事も形から入る人間なので、クリ のようなものがありました。特に、私 開業するからには中途半端なことはで 思っています。ですからなおのこと いました (笑)」 きないという、見栄というか、対抗心

に開業への思いをうかがった。

## こだわりのクリニッ 医局を辞めた後、 ェのような ク

就職していますから、 <sup>"</sup>アウトロー的"な存在だと自分では 一般的に見れば 市中病院に

しゃれたカフェのような印 お茶かコーヒーでも出て

3社でコンペを行いましたが 残念

> 侃々諤々の議論を繰り返した結果、 **山務店さんと設計士さんに相談して**

実を前にしたときに、たとえ医学部に さんに多大な影響を及ぼしてしまう現 正反対とも言うべき科を選択したのに は、このような理由があったという。 もともとは精神科志望だった吉村氏が 香川医科大学(現・香川大学)医学部 「今後、医師としてどのような道へ進 ICUの3つの現場に携わった。 以降、 同大学麻酔·救急医学講座 自分が発した言葉が患者 8年間にわたり、 88 年 に 麻酔

振り出しに戻ってしまったと、 だったとはいえ、内心ではこれでまた がほとんどでした。病院の経営やスタ ッフの配置を思えば致し方のないこと るより、手術時の麻酔を担当すること

けて、大きくシフトしていくことにな ともなかった「開業」という選択に向 吉村氏は、それまでまったく考えたこ 病院における自らの役回りを理解した 複雑な心境でした」 就職してわずか数ヵ月足らずで、

療につき必ず一回は笑いをとる)とい 医師になって以来ずっと心がけて 『一診療一笑い』(一回の診

私には、

して整形外科の患者さんの主治医にな かし、いざフタを開けてみると役目と して同病院に就職したはずでした。

で中退。そのまま医局を離れて、新た 研究に従事したものの、結局は2年間 階から限界を感じていた。 な道を模索することになった。 94年からは、大学院に入って麻酔の

や患者さんの家族に対するフォローと まざまな技術はもちろん、言葉づかい 感じていた救急の現場に身を置き、

った対応力を学ばせていただくこと

うと思いました。

ズムの解明については、かなり早い段

そこで、いちばん状況的に厳しいと

のは、 いか、と思うのです。 者さんの治療を行ううえで基本となる 方で十分治療が可能な一方、多くの患 の患者さんに関してはそのような考え 断し治療していました。しかし、 テムに異常がないかという観点から診 テムで分割して考え、それぞれのシス 神経系、循環器系、 やはり人間の体そのものではな ICUでは、 呼吸系などのシス 人間の体を中枢 重症

だった。

私はあくまでも整形外科医と

受けていたのは、思いも寄らない現実 を叩いた病院があったが、そこに待ち まださきがけだった麻酔指導医(専門

にしたのです。せっかくなら、

髄病の臨床経験を積んだ吉村氏。

06年には、永久就職をする覚悟で門

平和病院、香川勤労者医療福祉会高松

香川医療生活協同組合高松

思いも寄らない現実開業を決意させた

協同病院などへの勤務を経て、脊椎脊

と考えているうちに、いつの間にかミ 医)の資格を取るまでは続けようなど

イラ取りがミイラになってしまったの

治療はほとんどが他科任せという救命 救急に対する物足りなさを感じていた。

また、臨床麻酔のあり方とそのメカニ

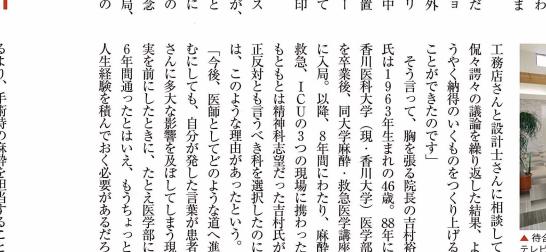
することにのみ重点が置かれ、

反面、運ばれてきた患者の生命を維持 多さなどはまったく苦にならなかった

当時、吉村氏は時間外労働や当直の

のです。 を診察できて、初めて医師としては さらに、膝や頚(くび)、腰、 いました。その様子を目の当たりにし 体各部分の治療を豊富な知識で行って で、ありとあらゆるパーツとしての身 年寄りの足のつま先の水虫にいたるま 方は、外来で頭を打った子どもからお 世話になったある整形外科病院の先生 人前と言えるのではないかと痛感した った身体の各パーツにおいても全身 私が大学院在籍中にアルバイトでお システムで全身を診察でき、

外科以外には考えられないと思い、 形外科への転科を決意しました」 その知識と技術を獲得するには整形





▲ 待合の大きな机は、患者同士の憩いの場になっている。 テレビを設置していないのも、吉村氏のこだわりだ。

●院長:吉村 裕(よしむら・ゆたか)氏

1963年生まれの46歳。88年に香川医科大学(現・香川大

学)医学部を卒業後、同大学麻酔・救急医学講座に入局。

その後、明石市立市民病院、国立療養所香川小児病院 香川大学医学部附属病院集中治療部勤務の後、96年整形 外科に転科。香川医療生活協同組合高松平和病院、香川 勤労者医療福祉会高松協同病院などの勤務を経て、06年

に医療法人社団聖心会阪本病院へ就職。08年4月、吉村 整形外科醫院を開業し、現在にいたる。麻酔科標榜医、日本整形外科学会専門医、日本整形外科

学会認定リウマチ医、日本整形外科学会認定脊椎脊髄病

医、日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医

- 勤務医時代との大きな相違点 -

◆休診日の手術や、救急病院への宿日直勤務な

勤務医時代よりも忙しくなった。 ◆年間を通じての、患者さんの外来変動を気に

◆患者さんとの接し方がソフトになった

日本リウマチ学会専門医。

するようになった。

ものはあったのです。 るだろうと、漠然とした自信のような きでしたし、得意だとも思っていたの もと外来で患者さんを診察するのが好 開業してもある程度はやっていけ ます (笑)。

-があり

開業するなら以前に勤務

していた高

年半ほど前だった。最も難航したのは いう結論にいたりました」 れる前に、早急に動いたほうがいいと 松協同病院の近くで、当時、 頼しておいたものの一向にらちがあか 土地探しだ。大手ハウスメーカーに依 していた患者さんが別の診療所へ移ら ションが開始されたのは、開業の 実際に、水面下で本格的なシミュレ もほど近い理想的な土地を手に入れ 最終的には吉村氏自身で、 私が診察 自宅か

い妥協しませんでした」 なかったので、建物や医療機器はもち や普通の一戸建てで開業するつもりは 購入、半分賃借です。 「全部で約20 家具などの内装に至るまでいっさ 駐車場のデザインやスリッパ入 08 年 4 0坪ある開業地は半分 月に産声を上げた 初めからビル診

間が広がっている。 な開放感にあふれた、気持ちのよい空 直接つながっているかのような爽やか がさんさんと降り注ぎ、 村整形外科醫院には、 その一方で、 明るい日差し まるで青空に

> る。 にならずにすむ優しい配慮が生きてい けられているため、 クと言えるだろう。 わり」が詰め込まれた究極のクリニッ ハビリ室の間にわず

るようで、 置きませんでした。それでも、 ているというから優秀だ。 クリニックの1日の平均患者数はおよ んたちは退屈するどころか、見知らぬ かったので、待合にはあえてテレビは 人同士で会話が弾んだりすることもあ 取材時(開業11ヵ月目)における同 すでに損益分岐点はクリア 本当にうれしい限りです」

以上にスタッフの動線や電子カルテの することになり申し訳ない気持ちでい 短縮に努めていきたいです」 運用方法などを改善して、 れる月曜日や土曜日などは、お待たせ 診察できるように努力しています。 っぱいになります。今後は、これまで できる限り患者さんは15分以内で

まさに、吉村氏の「夢」と「こだ お互いの視線が気



▼ 処置室は診察室

ムダがない。

とつながっていて、

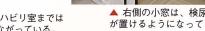
▼▼ スタッフ用休 憩室。ベランダも 広く、ベッドも1

台設置されている。

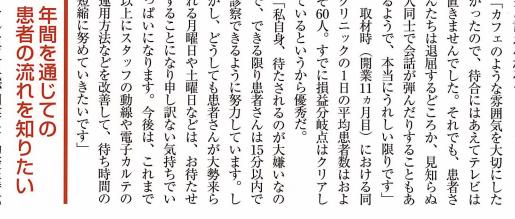
▲ スリッパ入れにも吉 村氏のこだわりが見え る、明るい玄関。



▲ 右側の小窓は、検尿コップ







られたという。

# 患者の流れる

とは変わったと感じているのは以下の そんな吉村氏が開業して勤務医時代

から日曜日にかけては救急病院に泊ま らいは手術があります がけの勤務に出ています。 昼休みを利用して訪問診療に出 逆に勤務医時代より 水曜日は月4回のうち3回く し、土曜日の夜 ムの連携医療 もかえって (苦笑)」 また、

本人のスト

では、2つ目の変化はいったい何か

持てるようになったぶん、 が実現し、家族との憩いの時間が多く いるようだ。 レス解消や仕事への活力につながって 忙しく働いている状況です クリニックから徒歩2分と近いことも けることも珍しくありません。自宅が 機関にも指定していただいていますの くにある住宅型老人ホ それでも、 念願だった、職住近接に

ろがあります。 あやふやなままにはしておけないとこ 以前よりかなり我慢するようになり いることはきちんと相手に伝えたい したね。私は、自分が正しいと思って 「患者さんへの接し方という意味では

をこれからも粛々とやっていくだけ」

今後については「今やっていること

と控え目に抱負を語る吉村氏だが、

言ではあるまい

「水曜日の午後と日曜日は休診して

が多かったのです。開業してからは、 注意しています」 なるべくそういうことは減らすように きつい口調でお説教をしてしまうこと 治さなあかんのや』などと、 なくて、どこそこが悪いから、 こうものなら、『いや、それは年じゃ しょうがないかしら』などと弱音を吐 たとえば患者さんが 『もう年だから ついつい そこを

のも、両者の間に揺るぎない信頼感が あればこそで、それだけ真剣に医療に いる 「証し」と言っても過

患者に対して耳の痛いことが言える

くことで、 大きな流れと言いますか、 満の開業医ならではとも言うべき、 んな不安を抱えているという。 一昨年4月の開業以来、 クリニックをオープンして1 10月までは

季節変動がデータとして蓄積されてい 月になるとやや減少傾向になりました。 た。今後、年間を通しての患者さんの 月に入るとまた少し減ってしまいまし 2月までは順調だったのも束の間、 12月からはまた増加に転じて、今年の 順調に患者さんが増えていたのに、 患者数の変動が私の体重の変 不安は解消されるとは思い おおまかな 3 11

化にも連動していました

氏の瞳がキラキラと輝いてい 思っていますから 待遇や環境面で充実感を感じていなけ ビスを提供することなんてできないと れば、患者さんを満足させられるサ そう言って笑った眼鏡の奥で、 ●診療科目:整形外科・リウマチ科・リハビリテーション科 恭一郎/撮影・ 柴谷

吉村整形外科醫院

●スタッフ:看護師3人、事務4人(すべて常勤) ●主要設備:電子カルテ、デジタルX線画像診断システム、 レントゲン、エコー、ウォーターマッサージベッド 血圧脈波検査装置

●所在地:香川県高松市木太町5055-4

OTEL: 087-866-6666

•URL: http://www.yoshimura-seikei.com/

通常のマンションのリビングほどもあ だ。クリニックの2階につくられた わっているのは、 担を度外視してあえて全員常勤にこだ る広々としたスタッフ休憩室を見れば ムラファミリ 看護師3. によって運営されている。 」という吉村氏の考え方によるもの 同クリニックは、 事務4. -の一員になってほし 「スタッフにはヨシ 人というスタッフ 経営的な負 医 師 1

その思いが伝わってくる。 「やはりスタッフがやりがいを持ち

▲ 管球の前後動ができ、 テーブルもフリーに動かせる。

▲ 診察室は2部屋ある。 動線もよく、移動も便利だ。